

丹波

口丹 随想

京丹波町の活性化を目指して始めたNPO法人・丹波みらい研究会の活動も今年で7年目を迎える。「通過する町から立ち寄り寄る町に」を合言葉に取り組んできた活動の趣旨も、ここ数年は「住んでみたい町に」と変化してきた。

全国で実施されている「住んでみたい町アンケート」では、交通に利便性のある観光都市や自然・文化が息づいている町に人気が集まる。そして、「健康・福祉」「人づきあい」「教育」の項目が住みたい町理由

住んでみたい町

あわてて町の広報誌を取り出し、子育て支援の情報や就学前教育に関する町の方針を読み返した。地域包括医療を担う京丹波町病院の存在や、保育サービスに目がいく。住民負担が無料



NPO法人丹波みらい研究会顧問

湊敏

の上位にランクされる。今年4月に長男夫婦が京丹波町に越してきた。引越前、他府県出身の母親(長男の妻)からは、近所とのつきあい方や子ども遊び相手はいるのかなど育見環境について尋ねられた。

ある日、停留場からはず

の健診、中学校卒業までの医療費の公費負担制度なども充実していると伝えた。越してきた母親のお気に入りには町内バスである。移動手段を持たない母子にとって町内バスは貴重な存在である。

待っていたため、バスは通過したが、数分後に2人のために引き返してくれたことがあったという。そんな出来事や子育て親世代の友人も得て、今では京丹波町の印象もアップしたようだ。

さらに、この夏、丹波みらい研究会が企画したLED

須知高校生が未来の町づくりについて語っている。「若者と高齢者が交流できるようなボランティアを通して積極的に活動に参加し、京丹波町を元気づけたい」と意欲的だ。

丹波みらい研究会は3年

山中タカ子「幻想の風景」(亀岡油絵懇話会)



D(発光ダイオード)ブチアートコンクールで、東日本大震災の犠牲者の鎮魂を願う地元中学生の作品を見て、この町の子どもの育ちを感じたと言う。

町の広報誌8月号では、

後に10周年を迎える。目標は「住みたい町・京丹波」の実現である。町の元気を伝える取組みに若者の参加は必須だ。研究会が毎年12月に開いている「琴滝・冬ほたるイルミネーション」に向け、間もなく準備が始まる。今年是一般の方や大学生に加え、地元高校生のボランティア参加も呼びかける予定だ。

10年目のもう一つの目標に「冬ほたるイルミネーション」の実現がある。3年後、100万球のLEDが照らす町は、住民や年代を超えたボランティアにより、豊かな自然と温かな人情、伝統や文化が途切れることなく次代に引き継がれている「住んでみたい町」であってほしいと願っている。

よいものを創る

冠婚葬祭一般
おつまみ
仕出し料理専門店

急なご注文でもご安心

宮津市天橋立二本松
☎0772-46-2753
http://www.matunami.co.jp

丹波総局
〒621-0805
亀岡市安町釜ヶ前
代表 0771 (22) 3515
FAX 0771 (22) 3517
tanba@mb.kyo
to-np.co.jp

南丹支局
〒622-0002